BUSINESS REPORT

第67期
中間事業レポート

平成27年12月1日～平成28年5月31日

北興化学工業株式会社

証券コード：4992

To Our Shareholders

株主のみなさまへ

代表取締役社長

中島喜勝

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、本年4月の熊本地震により被災されたみなさまに、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、第67期中間事業レポートをお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期の業績につきましては、後述の「上期の事業の経過および成果」に記載のとおり、売上高は250億1千3百万円、営業利益は23億7千5百万円、経常利益は22億1千7百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億3千万円となりました。

これも、株主のみなさまをはじめ、関係者各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

なお、当期の中間配当につきましては、1株につき4円50銭とさせていただきました。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年8月

上期の事業の経過および成果

当期間におけるわが国経済は、企業収益の改善並びに政府および日銀による積極的な経済政策や金融緩和策を背景に、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善が継続するなど、引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。

しかしながら、中国をはじめとする新興国経済の減速が顕著に現われていることや、年初からの円高傾向が進展していることなどから、景気の先行き不透明な状況が続いております。

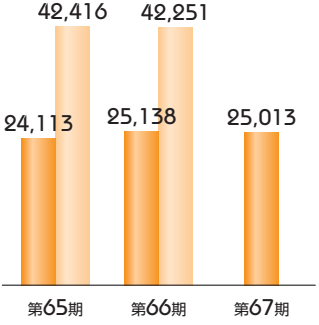
このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画の達成に向けた取り組みを着実に進める一方、営業活動においては、新製品の普及や新規受託品の受注活動を強化してまいりました。

当第2四半期の業績は、主にファインケミカル事業における需要低下の影響などにより、売上高が250億1千3百万円と前年同期比1億2千5百万円の減少（同0.5%減）となりましたが、営業利益は、生産コストの低減や低採算品目の削減を進めた結果、前年同期比2億3千7百万円増（同11.1%増）の23億7千5百万円となりました。

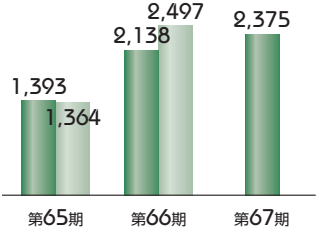
一方、経常利益は、円高の進展に伴い為替差損が発生したことから、22億1千7百万円（前年同期比1億5千2百万円の減少、同6.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、15億3千万円（前年同期比1千3百万円の増加、同0.9%増）となりました。

直近の業績の推移

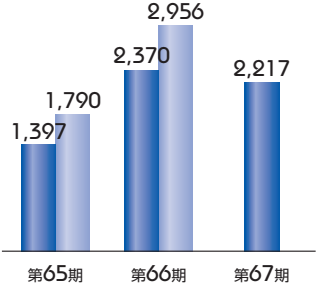
売上高



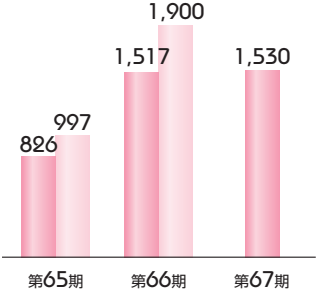
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



注）表示方法の変更について

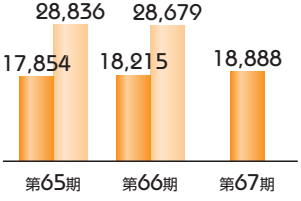
- 当社は、たな卸資産の一部についてその廃棄損を営業外費用に計上しておりましたが、当期より売上原価として計上する方法に変更しております。
- これに伴い、第65期および第66期については、営業利益並びにセグメント別農薬事業の営業利益を、同様の基準で組み替えて表示しております。
- なお、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益の表示に変更はございません。

事業別の状況

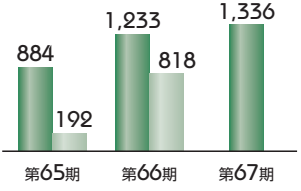
農薬事業

自然環境にやさしい“種子から収穫まで護る”製品をラインアップ。国内はもとより海外へも市場を拡大しています。

売上高



営業利益

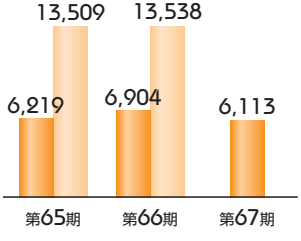


農薬製品は、国内販売における新剤を中心とした水稲用除草剤の売上増加の効果により、前年同期比増収(3.7%増)、増益（8.3%増）となりました。

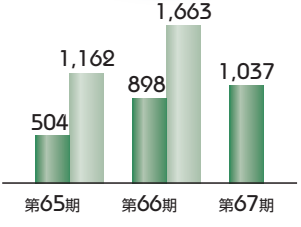
ファインケミカル事業

グリニャール反応の工業化技術をキーテクノロジーに、幅広い産業界からのニーズに応えています。

売上高



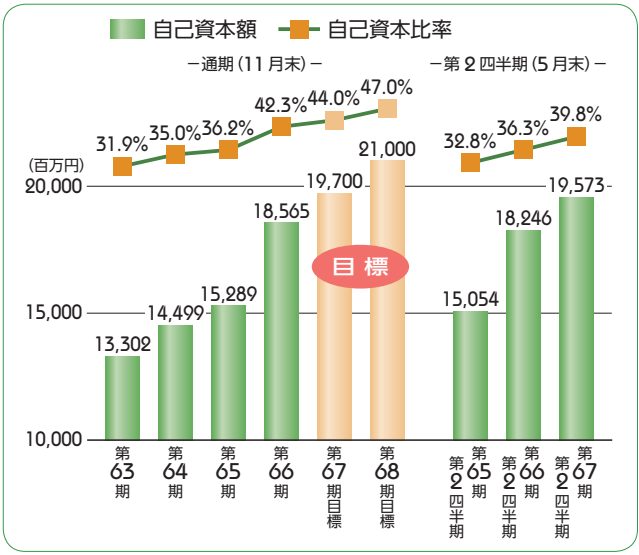
営業利益



ファインケミカル製品の販売は、主要分野の樹脂添加剤などの受注が低調に推移したことから、前年同期比減収（11.5%減）となりましたが、営業利益は生産コストの低減等により増益（15.5%増）となりました。

自己資本額と自己資本比率の推移

当社グループは、平成27年度（第66期）をスタートとする新3ヵ年経営計画において、売上の伸びに頼ることなく利益を創出できる体質への転換を加速し、自己資本の増強と自己資本比率の向上による安定的な財務基盤の構築を目指しています。



こうした財務内容の強化を背景として、組織・設備・開発、という3つの柱を拡充しながら事業を展開することにより、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。

3つの柱「組織」「設備」「開発」の拡充

組 織
- コーポレートガバナンスの充実
- 人材育成・個々の能力アップ

設 備
- 主要製品の安定供給、生産の効率化のため、平成27年度から３年間で約45億円の設備投資を実施

開 発
- （農薬）原体開発基盤の強化
- （ファインケミカル）技術革新に対応した材料開発等

自社原体「イプフェンカルバゾン」の農薬学会業績賞（技術）受賞

平成28年3月17日から開催された日本農薬学会第41回大会において、当社の『水稲用除草剤「イプフェンカルバゾン」の開発』が、業績賞（技術）を受賞しました。

本剤は、水稲栽培における問題雑草であるノビエに対する高い効果と長い残効性、並びに水稲への安全性を備えており、日本の農業に広く普及していることが評価され、受賞に至りました。

代表として5名が表彰されるとともに、受賞者講演も行われました。

授賞式の様子

カスガマイシン原体製造設備を新設（新潟工場第二工場）

世界的な食糧需要の拡大により、農薬の需要は増加してきています。当社では、特にアジアの水稲マーケットにおけるカスミン液剤（水稲用殺菌剤）の需要拡大に応えるため、その原体である「カスガマイシン」の製造設備の新設を行っています。

本工場建設のため、昨年秋に新潟東港工業団地内に敷地面積約1.48haの用地を取得し、11月の稼動に向けて工事を進めています。

建設中の工場

完成予想図

会社の概要 (平成28年5月31日現在)

会社の商号 (英訳名)	**北興化学工業株式会社** **HOKKO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.**
本社	東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
創立年月日	昭和25年2月27日
資本金	32億1,395万円
上場取引所	東京証券取引所　市場第1部上場
従業員数	660名
事業所の所在地	支店　札幌、仙台、東京、新潟、大阪、岡山、福岡
	工場　北海道、新潟、岡山
	研究所　開発研究所(神奈川)、化成品研究所(神奈川)
	試験農場　北海道、静岡

株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金受領株主確定日	期末配当　11月30日 中間配当　5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	電子公告(当社ホームページ) ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137−8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 **電話　0120 - 232 - 711 (通話料無料)**

北興化学工業株式会社
〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
住友不動産日本橋ビル
TEL.03(3279)5151

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C013080